

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）10:00～12:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 1 2

ハッ場ダムをストップさせる東京の会の●●●●と申します。着席させていただきます。

今回のハッ場ダムの検証については、そもそもダム事業を推進してきた当事者である関東地方整備局が検証にあたる、というシステムやハッ場ダムの残りの事業費を重視するというその手法そのものが問題があるのではないかと私たちは考えていますので、果たして、科学的・客観的検証が最後まで行われるのかどうか最初からとても不安を持っておりましたが、結果は予断なき検証とはほど遠いものであり、本当に残念でなりません。まず、利水について述べさせていただきますと、東京都をはじめとする一都五県の利水予定者は、実態とかけ離れた水需給計画によって本来は必要は無い水量をハッ場ダムに求めているのですから、利水の検証では何よりもまず一都五県の利水予定者の水需給計画を厳正に精査する必要があったのではないのでしょうか。ところがこれは行われておりません。今回の検証では、水需要の実態とかけ離れた予測をそのまま容認しているのは本当に問題です。お配りしてあるこの資料を御覧頂きたいと思います。私は東京都民ですので東京の例をとって申し上げます。東京都の場合、一日最大配水量は 1992 年度 627 万トンからほぼ減少の一途をたどって 2010 年度には 490 万トンに減少しています。ところが東京都の予測では逆に 2010 年度は 600 万トンに大きく増加していくことになっているのです。その理由として景気回復によって水需要量が増えるなど、と回答しております。私たち都民に対しては。しかし、節水機器の普及やライフスタイルの多様化、都民の節水努力によって今後水需要はどんどん減少して実態との乖離はますます離れていくに違いありません。私たちの働きかけで東京都議会は、昨年 2010 年 6 月、水需要予測の見直しを求める請願を採択しました。けれども、未だに実行されておられません。ところが東京都は、この水需要予測を採択しておきながら、別途に密かに水需要予測に関する調査研究を約 1 億円もかけて民間機関に委託していたのです。この調査研究は思うような結果が出なかったとみえて、今年行われた 2011 年 1 月の事業再評価委員会にはデータは提出せず、今までどおりの 2003 年度に行われた予測値を使っているわけです。こんな無駄遣いの極みは無いといえるでしょう。しかもこれはハッ場ダムに参画する根拠が無い、っていうことの証明だと私たちは捉えております。

次に保有水源の過小評価について、そのまま容認されているのは納得出来ません。私の住む東京の多摩地域は、地下水が一日約 40 万トンを水道水源として使用されております。ところが、この地下水が都の保有水源としてカウントされていないんです。この事実を多摩市民としては見過ごすわけにはまいりません。去る、2004 年 6 月、私たちの小平市議会は、地下水を水道水源として保全していくためにハッ場ダム事業の見直しを求める意見書を満場一致で採択しているのです。多摩地域の住民にとっては、良質な地下水は貴重な財産であり、将来にわたって利用していきたい大切な水源なのです。しかし、都の水需給計画では、水需給に余裕が生まれすぎるとは不都合のためか保有水源から意図的に排除しているのだとすれば、多摩地域の住民としては、これは断じて認めることは出来ません。今回の検証では、このような過小評価をそのまま容認しているのは到底納得が出来ないところです。利水予定者の水需給計画をただそのまま容認して、その要求水量を確保するために、先ほどの方も申し上げていたように富士川河口から導水するというような、全く現実的ではないような利水代替案と比較しているのですから、

結論は八ッ場ダムがベストになるのは火を見るより明らかではないでしょうか。次に、治水の検証について申し上げます。今回の検証では、関東地方整備局が利根川水系では、河川整備計画が策定されていないため河川整備計画相当の目標流量を 17,000 トンとすると発表しました。その前に、日本学術会議がこれと平行して行った利根川の基本高水流量の検証作業とは全く切り離して、関東地方整備局が一存で治水対策案を決めるのは一体どうなのでしょう。河川法で定める手続きを踏んで関係住民等の意見を反映させて定めるべきところを、これでは河川法の規定を無視しているといっても過言ではないのでしょうか。さて、この 17,000 トンの数字ですが、洪水流量の実績と比べると非常に過大で利根川の最近 60 年間の最大流量は 1998 年の 9,220 トンですから、17,000 トンっていうのは約その 1.8 倍にもなっています。これまで利根川河川整備計画策定作業の過程で示された目標流量は 15,000 トンだったはず。それが今回、約 2,000 トンも引き上げられた根拠は一体どこにあるのでしょうか。恐らく、八ッ場ダムの治水効果を大きく見せてその治水代替案との骨子と比較して八ッ場ダムが有利である、とするための都合の良い検討に過ぎないのではないのでしょうか。

さて、我が国は現在、人口減少・少子高齢化、財政赤字という大変危機的状況に置かれています。しかも 3.11 以降は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故、という未曾有の災害に見舞われております。こうした中では、税金の使い道を大きく変えていかなければならないのではないのでしょうか。そんな時に、八ッ場ダムのようなムダ使いな公共事業は、早く撤退してその予算を震災復興財源に充てるべきではないのでしょうか。出来るだけダムに頼らない治水への政策転換を進める考えのもとにスタートしたはずのダム検証が、いつの間にやら、八ッ場ダムを推進するための形式的検証になってしまったことは、到底納得が出来ません。私たちは抜本的な検証のやり直しを求めたいと思います。以上です。

以 上